

〔研究ノート〕

ソーシャルワーク教育課程の現状と課題： 学生定員充足率とカリキュラムの関係*

河野 喬¹・工藤 隆治¹・村上須賀子¹・鶴岡 和幸²・磯邊 省三¹・佐々木哲二郎¹

Status and issues in Social Work curricula: Focusing on the relationship between Capacity Fulfillment Rate and curriculum content

Takashi KAWANO, Ryuji KUDO, Sugako MURAKAMI,

Kazuyuki TSURUOKA, Shozo ISOBE, Tetsujiro SASAKI

Abstract

The purpose of this study is to analyze private universities with social work curricula in Japan and to identify the challenges in training social workers. The study included 63 courses of universities in western Japan, excluding national and prefectural universities. The results showed that social work universities had a low student capacity filling rate (maximum 118.8%, median 91.4% and minimum 42.0%). When the factors affecting student capacity fill rates were examined, the “multidisciplinary complex” with licensure in social work, psychology, and education was a significant predictor of student capacity fill rates ($p<.05$). Therefore, the direction of social work education in private universities should be to maintain and develop the content of the curriculum while social work and other disciplines coexist.

Key words:

Social Work (ソーシャルワーク), *National Qualifications* (国家資格), *curriculum* (カリキュラム), *Capacity Fulfillment Rate* (定員充足率), *multidisciplinary complex* (多分野複合型)

1. 序論

2018年度に開設した広島文化学園大学人間健康学部は、中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）の教職課程と社会福祉士・精神保健福祉士養成課程を一学部一学科で内包する学部として誕生した。全国的に特徴的な学部であり開設3年目

を迎えた2020年10月現在、学生定員を上回る在学生が入学し学んでいる。しかし、内訳をみると、日本学術会議が指摘している全国的な状況と同じく（日本学術会議，2011），福祉士国家資格をめざす入学者の割合及び実数は著しく少ない（東川他，2019）。人間健康学部は，2021年度をもって完成年度となるが，翌2022年度以降，さらに社会

* 本研究ノートは，人間健康学部カリキュラム再編ワーキンググループ（福祉カリキュラム部門）で行った調査結果の一部である。

¹ 広島文化学園大学 人間健康学部（Faculty of Human Health Science, Hiroshima Bunka Gakuen University）

² 広島文化学園大学 社会情報学部（Faculty of Social information Science, Hiroshima Bunka Gakuen University）

的役割を果たす学部となるためには、現状を分析しつつ、若者が入学を希望する大学として、広報面はもちろん教育課程（カリキュラム）の充実等により、準備を行う必要がある。そのため、学部内にカリキュラム再編ワーキンググループが設置され、福祉カリキュラム部門としては、他大学の調査、本学部福祉系カリキュラムの課題について検討を行った。

本報告では、私立大学のソーシャルワーク教育課程の大きな課題のひとつである学生定員充足率に注目し、充足に影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的に検討を行った。

2. 方法

(1) 調査対象

近畿、中四国、及び九州・沖縄地区にあるソーシャルワーク教育課程ないし福祉士国家資格課程を有する大学のうち、国公立大学を除いた58大学63学科を分析対象とした。

(2) 調査項目

1) 学生定員充足率

大学の情報公表制度（学校教育法施行規則第172条の2第1項）に基づき、各大学に公表すべき事項として定められている項目のうち、入学者数、収容定員、在学生数、及び定員充足率を抽出した。定員充足率は、文部科学省による私立大学等経常費補助金通知（文部科学省高等教育局、2018）を参照し、「0.7倍未満」、「0.7倍以上0.9倍未満」、「0.9倍以上1.1倍未満」、「1.1倍以上」の4つに分類した。なお、 χ^2 検定及び単変量ロジスティック回帰分析においては、充足をしていない「<90」と充足している「90≤」の2区分とした。

2) 学科名称

調査対象学科の名称に「福祉」の語を含むか否かについて区分を行った。

3) 偏差値区分

河合塾が運営する大学入試情報サイト「Kei-Net」を基に調査対象学科の偏差値（河合塾、2020）を抽出し、「35未満」（BF）、「35以上40未満」、「40以上45未満」、「45以上」の4つに区分した。

4) カリキュラム分類

調査対象学科をカリキュラム内容によって分類し集計した。分類は、福祉資格（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、及び保育士）及び教員免許、公認心理師養成課程の有無を基準とした。福祉資格を複数取得できるカリキュラムを「福祉強化型」、福祉資格と教員免許または公認心理師が取得できるカリキュラムを「多分野複合型」に区分した。福祉強化型は、更に社会福祉士と精神保健福祉士の2つの国家資格を取得できる「福祉強化型A」と、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、及び保育士資格のうち3つ以上を取得できる「福祉特化型B」に分類した。多分野複合型は、福祉資格と公認心理師を併せて取得できる「多分野複合型A」と、福祉資格と教員免許を組み合わせることで取得できる「多分野複合型B」に分類した。

(3) 倫理的配慮

大学及び学科名は匿名とした。

(4) 統計的处理

調査項目のうち、定量的データはすべて平均値及び標準偏差を求めた。調査項目間の関係を明らかにするために、学生定員充足率区分、学科名称、偏差値区分、カリキュラム分類の間でクロス集計し、 χ^2 検定を行った。次に、 χ^2 検定にて学生定員充足率区分との関連に有意差が認められた要因を独立変数として、定員充足の有無を従属変数とする単変量ロジスティック回帰分析（強制投入法）を行った。有意水準はそれぞれ5%未満とし、解析にはSPSS version 24.0を使用した。

3. 結果

(1) 調査対象の概要

調査対象63学科の概要をTable 1に示す。学生定員充足率は、最大値118.8%、中央値91.4%、最低値42.0%であった。

学科名称に「福祉」を含まない学科は46学科であり、福祉を含む学科を大きく上回った。偏差値区分をみると、全63学科中26学科が「35未満」、20学科が「35以上40未満」であり、40未満が過半数であった。カリキュラム分類としては、福祉強化型が40学科（Aが22学科、Bが18学科）、多分野複合型が23学科（Aが9学科、Bが13学科）であった。

(2) 学生定員充足率と各要因の関連

学生定員充足率に関連する要因を検討するために行った χ^2 検定の結果をTable 2に示す。

まず、学科名称との間に有意な関連が認められ

た ($p<.05$)。残差分析の結果、「 <90 」においては「名称に福祉含む」の件数が多く、「 $90\leq$ 」においては「名称に福祉含まない」が多かった。次に、偏差値区分との間にも有意な関連が認められた ($p<.01$)。残差分析の結果、「 <90 」においては「35未満」の件数が多く、「 $90\leq$ 」においては「35以上40未満」が最も多かった。そして、カリキュラム分類との間にも有意な関連が認められ ($p<.001$)。福祉強化型は「 <90 」が多く、多分野複合型は「 $90\leq$ 」が多かった。

(3) 学生定員充足に関連する要因の検討

χ^2 検定で有意であった要因を独立変数、学生定員充足の有無を従属変数とする単変量ロジスティック回帰分析を行い、調整オッズ比 (OR) と95%信頼区間 (CI) を算出した (Table 3)。

まず、学科名称に福祉を含むか否かが、学生定員充足と有意に関連していた (OR=5.091, CI: 1.288-20.127, $p<.05$)。次に、偏差値区分の上昇

Table 1 調査対象学科の概要

学科名称	定員充足率 (%)				
	$< 70 (N=14)$	$70-89 (N=13)$	$90-109 (N=27)$	$> 110 (N=9)$	Total ($N=63$)
名称に福祉含む	0 (0%)	3 (5%)	9 (14%)	5 (8%)	17 (27%)
名称に福祉含まない	14 (22%)	10 (16%)	18 (29%)	4 (6%)	46 (73%)
偏差値区分					
35未満	9 (14%)	8 (13%)	8 (13%)	1 (2%)	26 (41%)
35以上40未満	5 (8%)	3 (5%)	9 (14%)	3 (5%)	20 (32%)
40以上45未満	0 (0%)	2 (3%)	6 (10%)	3 (5%)	11 (17%)
45以上	0 (0%)	0 (0%)	4 (6%)	2 (3%)	6 (10%)
社会福祉士養成課程					
あり	14 (22%)	13 (21%)	24 (38%)	7 (11%)	58 (92%)
なし	0 (0%)	0 (0%)	3 (5%)	2 (3%)	5 (8%)
精神保健福祉士養成課程					
あり	13 (21%)	11 (17%)	19 (30%)	6 (10%)	49 (78%)
なし	1 (2%)	2 (3%)	8 (13%)	3 (5%)	14 (22%)
介護福祉士養成課程					
あり	8 (13%)	4 (6%)	4 (6%)	1 (2%)	17 (27%)
なし	6 (10%)	9 (14%)	23 (37%)	8 (13%)	46 (73%)
カリキュラムの分類					
福祉強化型A	7 (11%)	5 (8%)	9 (14%)	1 (2%)	22 (35%)
福祉強化型B	7 (11%)	5 (8%)	5 (8%)	1 (2%)	18 (29%)
多分野複合型A	0 (0%)	1 (2%)	5 (8%)	4 (6%)	10 (16%)
多分野複合型B	0 (0%)	2 (3%)	8 (13%)	3 (5%)	13 (21%)

Number (%), 福祉強化型A (社会福祉士+精神保健福祉士), 福祉強化型B (福祉士国家資格3つ以上), 多分野複合型A (福祉資格+公認心理師), 多分野複合型B (福祉資格+教員免許)

Table 2 学生定員充足率と学科名称、偏差値区分、及びカリキュラム分類の関連

	<90 (N=27)	90≤ (N=36)	χ^2
学科名称			
名称に福祉含む	24 (52%)	22 (48%)	6.042*
名称に福祉含まない	3 (18%)	14 (82%)	
偏差値区分			
35未満	17 (65%)	9 (35%)	12.689**
35以上40未満	8 (40%)	12 (60%)	
40以上45未満	2 (18%)	9 (82%)	
45以上	0 (0%)	6 (100%)	
カリキュラムの分類			
福祉強化型A	24 (60%)	16 (40%)	13.764**
福祉強化型B	3 (13%)	20 (87%)	
多分野複合型A	24 (60%)	16 (40%)	
多分野複合型B	3 (13%)	20 (87%)	

Number (%), Mean \pm SD, *: $p<.05$, **: $p<.01$, ***: $p<.001$.

Table 3 学生定員充足率 (0=未充足, 1=充足) に関連する要因

		odds比	95% 信頼区間
学科名称	福祉含む	0.240	0.046- 1.243
	福祉含まない	5.091	1.288-20.127*
偏差値	偏差値区分	3.289	1.594- 6.790***
カリキュラム	福祉強化型A	0.833	0.360- 1.929
	福祉強化型B	0.500	0.188- 1.332
	多分野複合型A	8.000	1.001-63.963*
	多分野複合型B	6.000	1.343-26.808*

*: $p<.05$, **: $p<.01$, ***: $p<.001$. HosmerとLemeshowの検定: *n.s.*

と学生定員充足についても有意に関連していることが示された (OR=3.289, CI: 1.594-6.790, $p<.001$)。そして、対象学科のカリキュラム区分をみると、多分野複合型のうち、福祉資格と公認心理師の組み合わせであるA (OR=8.000, CI: 1.001-63.963, $p<.05$.) とB (OR=6.000, CI: 1.343-26.808, $p<.05$.) のいずれも学生定員充足率と有意に関連していることが認められた。なお、複数の福祉資格を取得できる福祉強化型カリキュラムは、学生定員充足率に影響を及ぼしていなかった。

4. 考察

本報告では、私立大学のソーシャルワーク教育課程の課題として、学生定員充足率に注目し、学科名称、偏差値区分、及びカリキュラムにおける

資格課程との関連について検討を行った。調査対象が西日本に留まり、私立大学に限定した調査であるという限界があるものの、次のような現状を明らかにした。

検討の結果、学科名称や偏差値といった大学の外観的な要因だけでなく、カリキュラムという大学教育の内容についても学生定員充足率に影響を及ぼしていることが示唆された。なかでも、複数の福祉資格を取得できる福祉強化型カリキュラムよりも、公認心理師や教員免許を取得できる多分野複合型カリキュラムが学生定員充足率を高める予測因子であった。雇用情勢等、福祉専門職に寄せられるニーズから考えると、福祉の社会的意義が低減しているというよりは、むしろ福祉資格カリキュラムの精度の問題であるとも解され、必要以上に大学生活を圧迫している結果であると解す

ることができる。そもそも、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、保育士といった、共通するフィールドをもつ福祉資格をそれぞれカテゴリー化することに対しては、カテゴリー間の階層化、技術構成の硬直化、及び必要とされる技術習得及び発展を阻むものとして、資格創設の際に懸念が寄せられていた（浅原，2017）。国家資格としての資格法制化の背景には、政策転換に伴う厚生省主導の関連団体との調整があり、既存の市場とは異なる新たな市場づくりの狙いがあったとの指摘がされている（京須，2006）。そのため、教育内容をはじめとする各福祉資格制度には、強い行政規制が及んでおり、職能団体による自律性も限定的であるとの問題提起が創設当初になされていた（北村，1989）。現在までに、総合的かつ包括的な支援を行う専門資格として、福祉資格の統合化が提案されてきたものの（秋山，2007）、未だ実現にはほど遠い状況にある。

実際に、社会福祉士及び精神保健福祉士課程を精査すると、大学卒業に要する124単位のうち、社会福祉士指定科目が63単位、精神保健福祉士が65単位と過半数を占める。社会福祉士及び精神保健福祉士の両資格を得ようとする場合には、うち31単位の共通指定科目があるものの、総計98もの単位を、国家資格を得るために充足しなければならない（広島文化学園大学，2020）。いわゆる職業教育的な大学生活とならざるをえない状況であり、他の学問領域に触れることを妨げるカリキュラムであるとの指摘ができる。歴史的に、大学は職業教育の場ではなく、一般教養教育（リベラルアーツ）等を含めた、有能で教養ある人間を育成することを目的とした教育機関であるとされてきたことを鑑みると（Mill，1867）、カリキュラムの精査が必要であろう。

福祉士養成課程の学生定員充足率の低迷は、冒頭で述べた通り、全国的な問題となっている（日本学術会議，2011）。しかし、多分野複合型の多くが、文部科学省が適切と考える90%以上の学生定員充足率を満たしており、福祉の学びそのものが否定されているわけではない。少子高齢化、都

市部への人口集中等により、専門職であるか否かと問わず、地域では相互扶助及び地域包括ケアの担い手が必要となっている。また、虐待、DV、各種ハラスメント等、緩和・解決のためにメンタルヘルスや社会資源の知識・活用技術を要する課題が山積みであり、一般人においても対人援助技術が求められる時代でもある。福祉専門職をめざす学生以外にも、福祉を学ぶことで、弱い立場にいる人々への関心、社会問題解決への関心、利他的意識・公共心を育むことができ、社会を良いものにしようとする姿勢・発想を醸成することができよう。これらのことから、福祉資格取得をめざす学生はもちろん、全学部生にとってアクセスしやすいカリキュラムとして福祉が学べるようにする必要がある。他資格と併修ができるよう、他の資格指定科目とのすり合わせ、教養教育としての科目内容の一般化、履修上の柔軟性向上等、カリキュラム再編でやるべきことは多い。

5. 結論

本報告は、私立大学ソーシャルワーク教育課程の学生定員充足率に焦点を当て、関連する要因を検討した。その結果、福祉資格を複数取得できる福祉強化型カリキュラムに比べて、多分野複合型カリキュラムが、学生定員充足率を促進することが示唆された。

参考文献

- 1) 秋山智久（2007）. 社会福祉専門職の研究. 京都：ミネルヴァ書房.
- 2) 浅原千里（2017）. ソーシャルワークとケアワークの分離に至る過程－「社会福祉士法試案」から「社会福祉士及び介護福祉士法」成立までの議論分析. 日本福祉大学社会福祉論集，136，39-64.
- 3) 服部映里（2016）. 四年制大学の社会福祉系カリキュラムを取り巻く諸状況. 西武文理大学サービス経営学部研究紀要，（28），95-119.

- 4) 東川安雄, 山崎昌廣, 工藤隆治, 村上須賀子, 渡邊満, 武田守弘, 松尾晋典, 房野真也, 高田康史, 加地信幸, 河野喬, 森木吾郎, 鬼塚純玲, 前田一篤(2019). 2019年度人間健康学部スポーツ健康福祉学科入学生の入学状況に関わる実態調査. 人間健康学研究, 2, 83-89.
- 5) 広島文化学園大学(人間健康学部スポーツ健康福祉学科)(2020). 履修の手引き: 2020年度入学生版.
- 6) 河合塾(2020). Kei-Net, URL: <https://www.keinet.ne.jp/university/ranking/> (2020.10.30確認)
- 7) 北村喜宣(1989). 「社会福祉士及び介護福祉士法」の立法過程. 季刊・社会保障研究, 25(2), 177-188.
- 8) 京須希実子(2006). 福祉系国家資格制定過程の研究: 「専門職」形成のメカニズム. 産業教育学研究, 36(1), 57-64.
- 9) Mill, J.S. (1867). Inaugural Address delivered to the University of St. Andrew, Rector of University: London Longman, Green, Reader, and Dyer, MDCCCLXVII, 竹内一誠訳(2011). 大学教育について. 岩波文庫.
- 10) 文部科学省高等教育局(2018). 平成31年度以降の定員管理に係る私立大学等経常費補助金の取り扱いについて(通知), URL: https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/002/002/_icsFiles/afieldfile/2018/09/19/1409177.pdf (2020.10.30確認)
- 11) 日本学術会議(社会学委員会福祉職・介護職育成分科会)(2011). 提言福祉職・介護職の専門性の向上と社会的待遇の改善に向けて.